

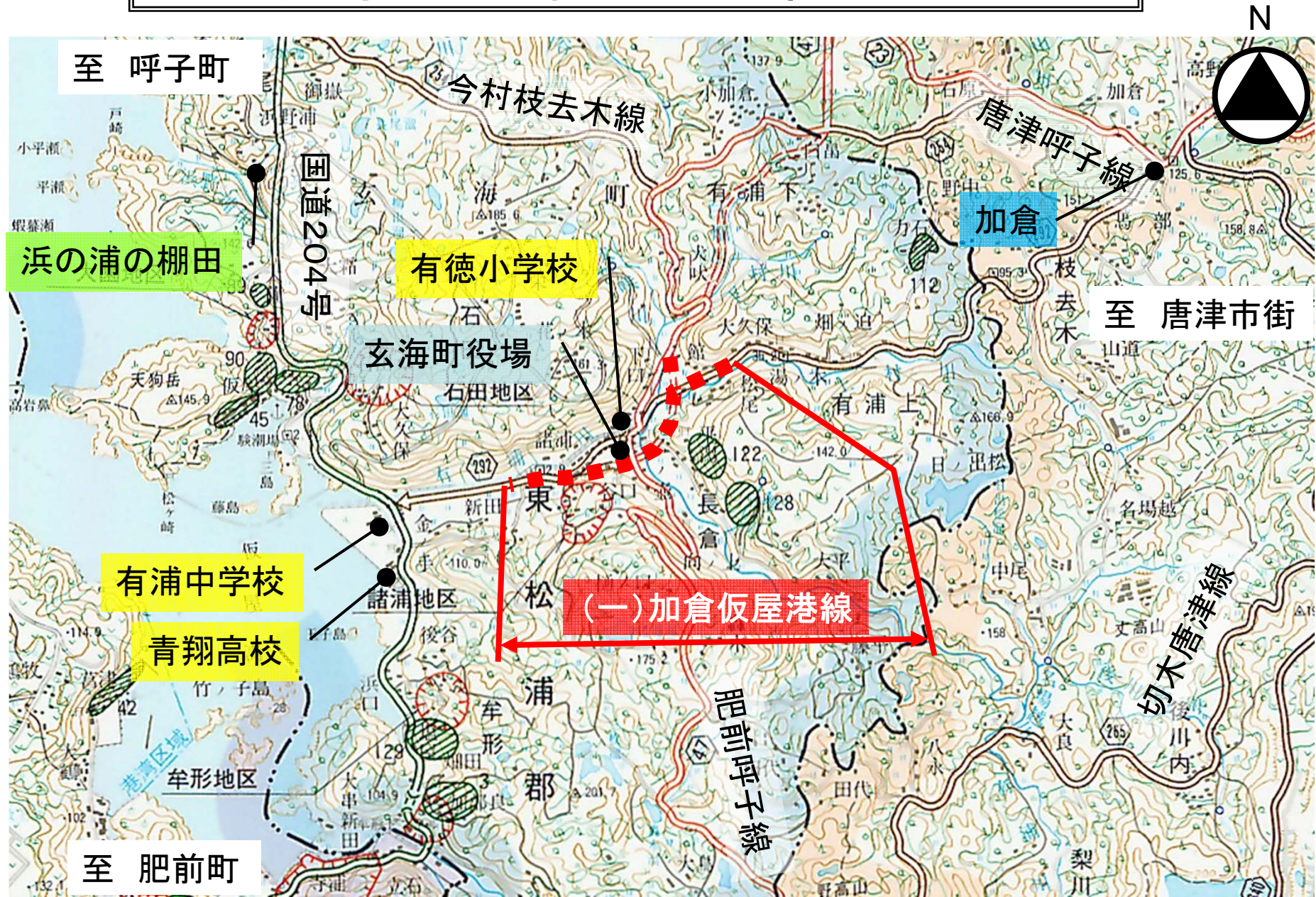
# 平成22年度 再評価委員会

路線名：一般県道 加倉仮屋港線  
（有浦上工区）

事業名：道路整備交付金事業

（着手より10年経過のため再評価）

# 一般県道 加倉仮屋港線 位置図



# 事業目的

道路幅員が狭く  
離合待ち



歩道が無く  
歩行者が危険

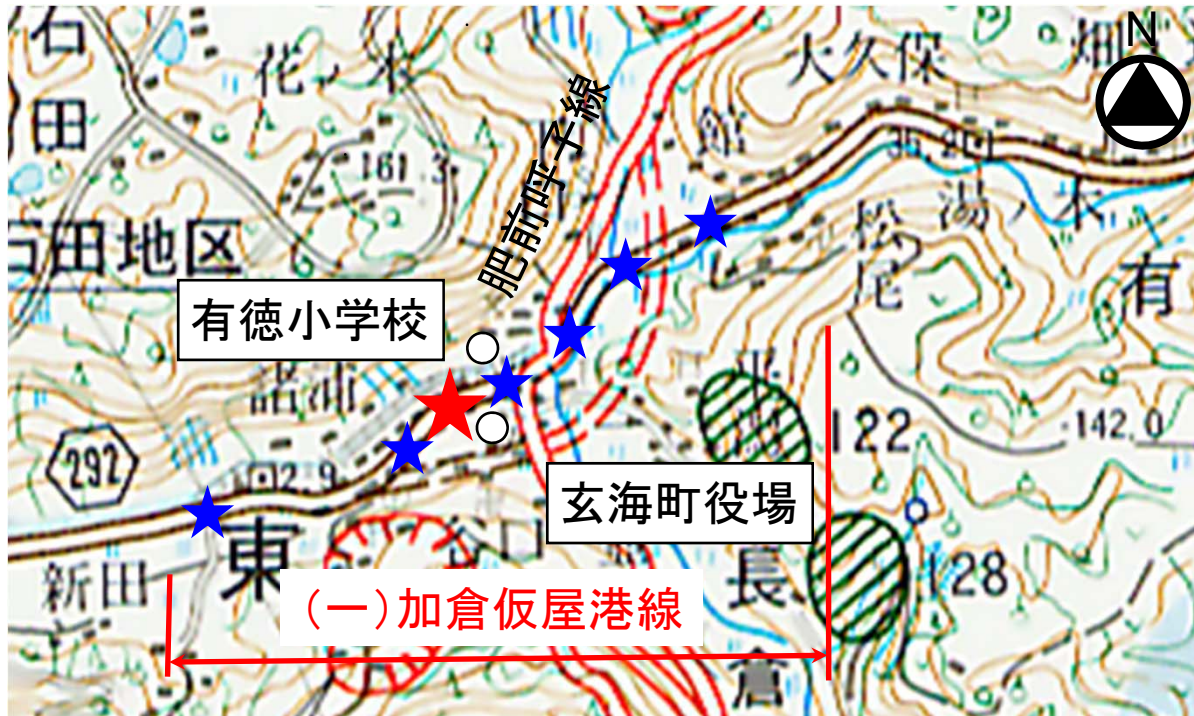
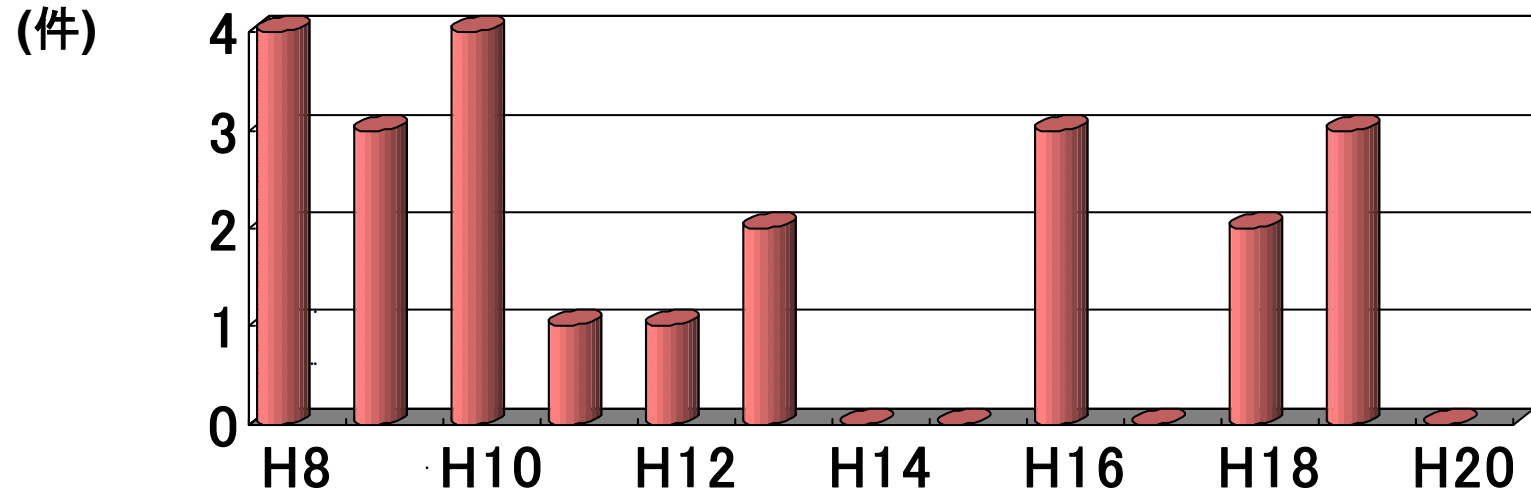


車道は1車線

バイパス整備により

交通の円滑化、歩行者の安全確保

- 事故の発生状況。H8～H20で**23件**。



凡例	
★	1～5件
★	5件以上

# 事業概要

- 全体事業費：24.0億円
- 工期：平成13年度～平成24年度（予定）
- 全体延長：L=2,000m
- 事業内容：改良工 L=2,000m  
用地買収 25,800m<sup>2</sup>  
家屋補償 18戸

## 事業の進捗状況

	平成21年度まで	平成22年度	平成23年度以降
事業費(億円)	15.8	3.0	5.2
進捗率(%)	65.8	78.3	100.0
用地進捗率(%)	54.0	70.0	100.0

# 一般県道 加倉仮屋港線 平面図

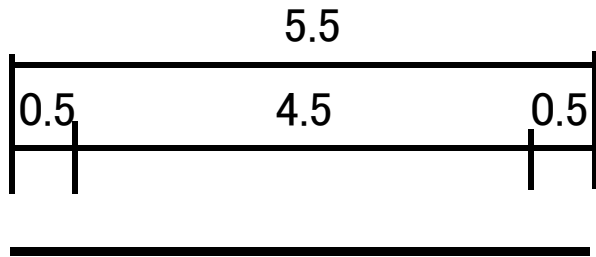
全体延長 L=2,000m



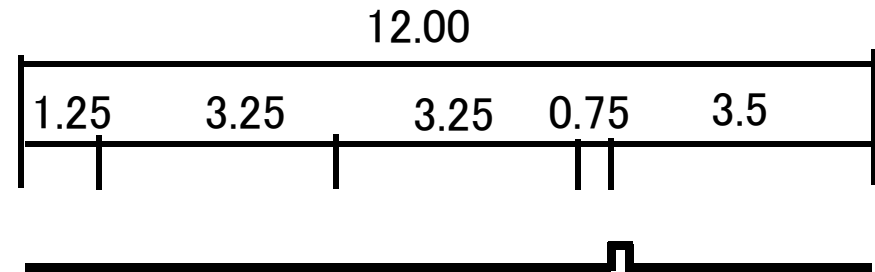
凡例	
青	平成21年度まで
赤	平成22年度施工箇所
黄	次年度施工箇所

# 一般県道 加倉仮屋港線 横断図

現況



計画



# 事業を巡る社会経済情勢等の変化

- 交通量の増加

H9 4,764台／日(基準)

H11 4,960台／日(1.04)

H17 4,951台／日(1.04)

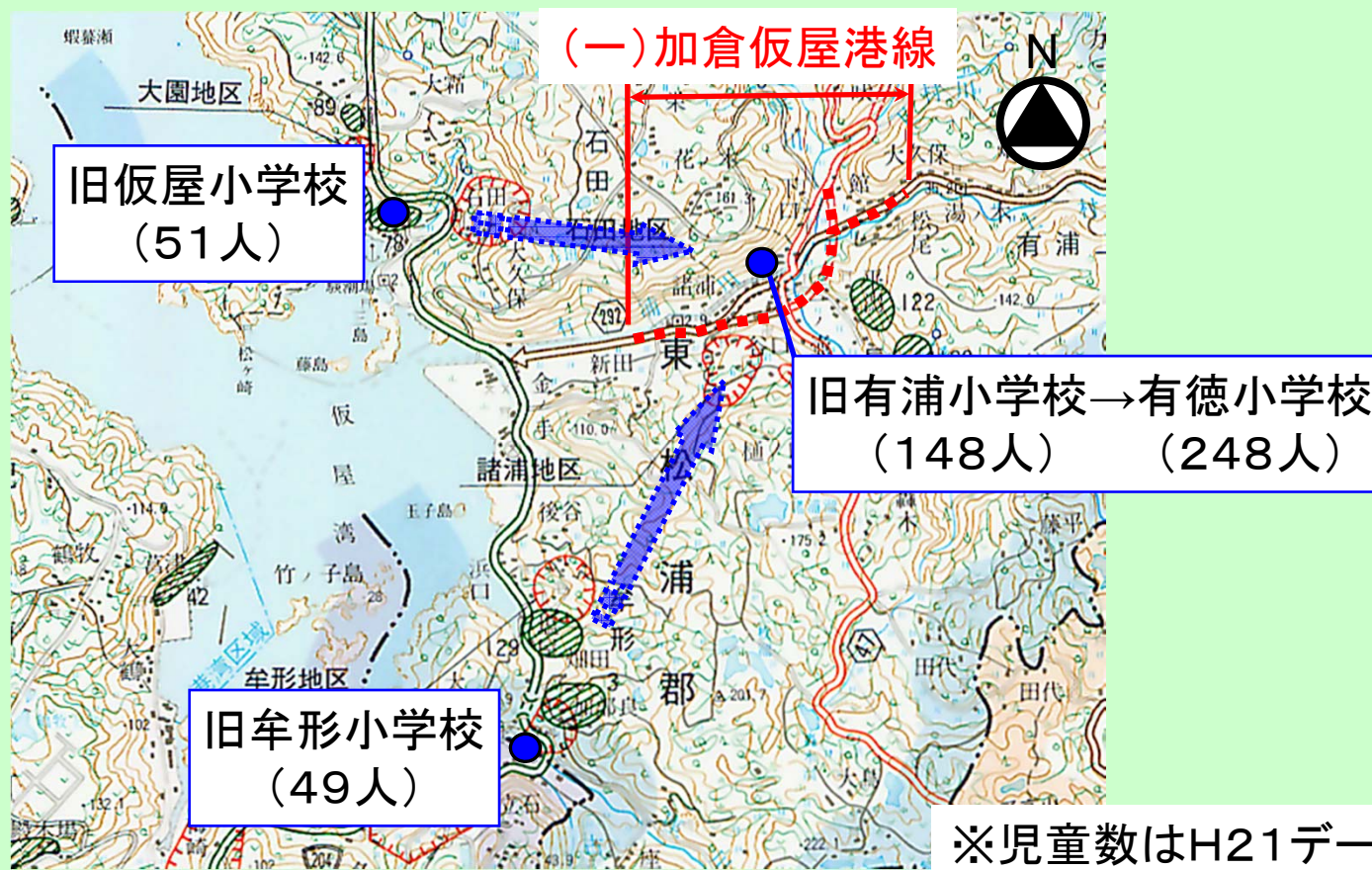
- 原発避難路として整備を進めている中、平成21年12月から九州電力玄海原子力発電所でプルサーマルが始められたため、原子力発電に対する周辺住民の関心が高まっている。

- 平成11年度に「日本の棚田百選」に認定されている「浜の浦の棚田」が、平成19年4月に「恋人の聖地」として認定されたことから、観光ルートとして交通量の増加が予想される。



# 事業を巡る社会経済情勢等の変化

- 玄海町3つの小学校が今年度から統合し、新たに有徳小学校となり、児童数が増えている。



# 費用対効果の要因の変化

- 事業採択時と比較して大きな要因の変化は見られない。

$$\text{費用便益比(B/C)} = 36.2 / 25.7 = 1.4$$

- 【便益】

走行時間短縮便益	=	35.3億円
走行経費縮小便益	=	1.0億円
交通事故減少便益	=	-0.1億円
合計		36.2億円

- 【費用】

事業費	=	25.0億円
維持管理費	=	0.7億円
合計		25.7億円

# コスト縮減や代替案等の可能性

## (コスト縮減)

- 再生資材の利用促進を図っている。
- 工事で発生する残土を盛土等に流用する。

## (代替案の検討)

- 特になし

# 対応方針(事業課案)

- 事業の必要性に変化が無い。
- 現在も、依然として交通の円滑化と交通安全の確保が出来ていないことから、引き続き事業を継続したい。